

「第7回 ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」において「環境サステナブル企業」に3年連続で選定

森永乳業は、環境省が主催する「第7回 ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」において、重要な環境課題に関する開示充実度が一定の基準を満たしている企業に贈られる「環境サステナブル企業部門」に3年連続で選定されたことをお知らせいたします。



「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」は、2019年に環境省により創設された表彰制度です。ESG金融に積極的に取り組む金融機関や諸団体、サステナブル経営に取り組む企業を評価・表彰し、その内容を社会全般に広く共有することを目的としており、今年で7回目を迎えます。

「環境サステナブル企業部門」は、「環境関連の重要な機会とリスク」を「企業価値」向上に向け経営戦略に取り込み、企業価値にもつなげつつ環境への正の効果を生み出している「環境サステナブル企業」の具体的な実例を投資家、企業に示すために表彰するものです。重要な環境課題に関する「リスク・事業機会・戦略」、「KPI」、「ガバナンス」の開示充実度を、業種別特性も考慮して評価・選定されます。

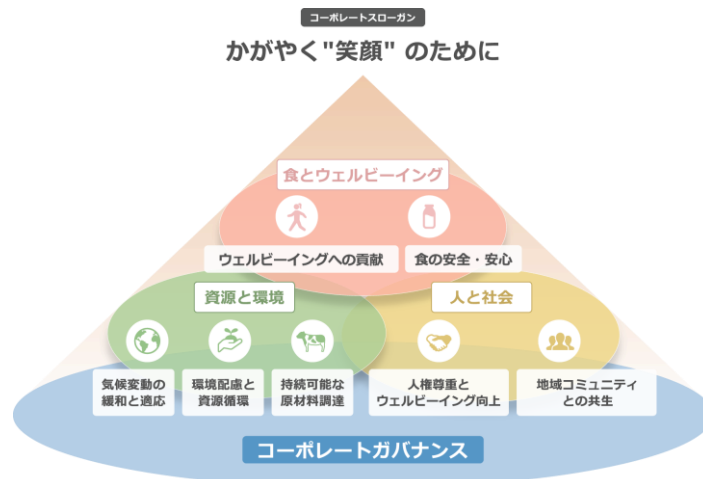
「ESG ファイナンス・アワード」【環境サステナブル企業部門】概要

<https://www.env.go.jp/policy/award.kigyobumon.html>

環境省 報道発表資料 第7回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」受賞者の決定について

https://www.env.go.jp/press/press_02902.html

当社グループは、サステナビリティ経営の実現に向け、「サステナビリティ中長期計画 2030」を策定し、3つのテーマ「食とウェルビーイング」「資源と環境」「人と社会」を軸に取り組みを進めています。



「資源と環境」では、サプライチェーン全体での環境負荷低減を進めています。中でも気候変動の緩和に向けては、2050年カーボンニュートラルを目指し、Scope1,2,3それぞれで2030年までの削減目標を定め、取り組みを進めています。具体的には、事業所における省エネルギー活動や再生可能エネルギーの活用、サプライチェーン上においてはモーダルシフト推進や酪農現場でのメタン削減を推進しています。同時に、TCFDの枠組みでの開示の充実など、森永乳業グループの環境に対する取り組みを積極的に発信しています。

【2025年度の環境に関する主な取り組み】

① 森永乳業の国内生産拠点^{※1}で購入する電力を実質再生可能エネルギー由来に100%切り替え

気候変動対策の一環として、再生可能エネルギー由来の電力を使用したCO₂排出削減の取り組みを進めてきましたが、このたび2025年4月より森永乳業の国内生産拠点すべての工場^{※1}で使用する電力を実質再生可能エネルギー由来に100%切り替えました。また、現時点で国内での森永乳業グループ全体の生産拠点においても9割以上^{※2}の切り替えを達成しており、2026年4月には100%達成する計画です。各電力会社から購入する電力供給をCO₂フリープラン^{※3}とすることで、年間で実質8万トン以上のCO₂排出削減を計画しています。

※1 全国11カ所の直系工場

※2 直系工場含む全国27カ所中25カ所で切り替え済

※3 再生可能エネルギー指定の非化石証書を活用することで、実質的に再生可能エネルギー100%かつCO₂排出量ゼロの電気が利用できるプランのこと。

② ビヒダスプレーンヨーグルト、新容器でプラスチック使用量16%以上削減

『ビフィズス菌 BB536』を使用した「ビヒダス ヨーグルト」シリーズから、「ビヒダス プレーンヨーグルト」「ビヒダス プレーンヨーグルト脂肪ゼロ」を内容量はそのままに、環境に配慮した省サイズ化パッケージへ変更し、2025年9月より順次、全国でリニューアル発売しました。従来容器より高さを約2cm低くし、よりコンパクトに省サイズ化したことで、プラスチック使用量を16%以上削減しています。